



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3899 号 2017.9.15 発行

茨城) 自閉症の中1が粘土講座 16日から水戸で 朝日新聞 2017年9月14日

松橋克希さん。大好きなキャラクターの絵を自分で描き、人形を貼り付けた看板も作った=水戸市笠原町



自閉症と向き合いながら、特撮番組に登場する悪役や怪獣から発想を得たキャラクター人形を粘土で表現する中学1年生が16、17日、市内のイベントに初出店する。当日



は200点以上の作品展示に加え、その場で粘土細工を体験できる講座を開く。

中学生は水戸市笠原町の松橋克希(よしき)さん(12)。母親の裕子さん(46)によると、発達障害が分かった幼少期は、睡眠障害のため生活が不規則になり、自分の感情をうまくコントロールできないこともあった。

粘土との出会いは、小学校にあがる前に通った学童保育。元々、ハサミを使った工作などが得意だったが、美術教育の経験を持つ指導員と一緒に粘土遊びを始めたところ集中力を発揮。小学4年の頃、紙粘土にアクリルガッシュで鮮やかな色をつける方法を身につけた。

裕子さんは当初、ニンジンや豆を作って見せたが、本人が一心不乱に作り続けたのはアニメ「妖怪ウォッチ」に出てくる妖怪キャラクター。その後も、「ウルトラマン」の怪獣や人気ゲーム「モンスターハンター」のモンスターなどに興味を示した。

最近では「仮面ライダー」の悪役「ショッカー」や、その首領をイメージして考え出したオリジナル作品に没頭。インターネットの動画投稿サイトで特撮映像を見ては創作意欲を燃やしているという。裕子さんは「粘土職人よっちゃん」の名前でフェイスブックに登録、作品の発表を手伝う。

今回は、同市泉町仲通りの空き店舗に工芸作品などを並べる催し「ザ★リノベマーケット×まちなかほしぞら横丁」に参加する。女性起業家コンサルタントでもある裕子さんの知人たちが支援する形で「粘土ギャラリー」の出店が決まった。来場者も一緒に粘土をこねる体験講座(参加費500円)は、16、17日の午前10時～午後5時。作品展示は

16日のみ同9時まで。(佐藤仁彦)

療育専用馬、浦河町に有志寄贈 カファラジ号の調教順調 「頭良く穏やか」

北海道新聞 2017年9月14日



乗馬療育の専用馬として10月にデビューする予定のカファラジ号

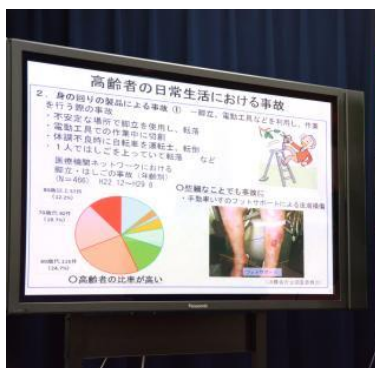
【浦河】町内外の有志から町に贈られた乗馬馬「カファラジ号」が高齢者や障害者を乗せる「乗馬療育」専用馬になるため、町乗馬公園で調教を受けている。乗馬療育は体のバランスや精神を安定させる効果があり、体格が良く穏やかな性格のカファラジ号は関係者の期待を集めている。10月にはデビューできる見通しだ。

カファラジ号は8歳の去勢されたせん馬。丈夫で持久力があるクリオージョ種で体高1・5メートルと比較的背が低く、体の不自由な人でも乗り降りしやすいという。

町内では、福祉関係者らが20年前から乗馬療育に取り組んでおり、現在は町の委託を受けた一般財団法人「ホースコミュニティ」（滋賀県）の乗馬療育インストラクターらが体を動かす機会の少ない高齢者や障害者を対象に指導している。

高齢者の転倒事故防止呼び掛け 消費者庁、敬老の日を前に

共同通信 2017年9月13日



高齢者の事故について注意を呼び掛ける消費者庁の岡村和美長官＝13日午後、消費者庁

消費者庁は13日、敬老の日を前に、高齢者の転倒や転落事故に注意を呼び掛けた。東京消防庁によると、2015年までの5年間に都内で転倒・転落した65歳以上の搬送者は計約25万人に上り、約4割が入院必要と診断された。高齢になるにつれて重傷化しやすい傾向もある。

消費者庁の担当者は「長年暮らした環境でも、体の衰えで事故のリスクが高まる」と指摘している。自宅など身の回りにある段差にはスロープを設置するほか、暗い所に照明を増やすなどの対策を取るよう求めている。

防犯カメラ映像消える＝障害者施設で暴行前後－栃木

時事通信 2017年9月13日

宇都宮市の障害者支援施設「ビ・ブライト」で4月、入所者の男性（28）が骨折などの重傷を負った事件で、施設に設置された防犯カメラから、事件前後の録画映像が消えていたことが13日、捜査関係者などへの取材で分かった。栃木県警は、何者かが意図的に映像を消した可能性もあるとみて、押収したハードディスクを解析するなど捜査を進めている。

ビ・ブライトを運営する社会福祉法人「瑞宝会」によると、カメラは施設の玄関や2階廊下の計5カ所に設置。男性が救急搬送された翌日の4月17日に県警と映像を確認した際、事件が起こったとされる同15日前後の映像が消えていた。カメラのモニターやハードディスクがあった部屋は、職員なら誰でも入れる状態だったという。

瑞宝会側は13日の記者会見で「録画が抜けている期間があったのは間違いない。故障と考えていた」などと説明。その上で「(施設として)意図的に消したということはない」と話した。土屋和夫理事長（59）も「組織ぐるみの隠蔽（いんぺい）はなかった」と強

調した。

障害者支援施設暴行 別施設でも入所者“暴行受けた” NHK ニュース 2017年9月14日

宇都宮市の障害者支援施設で知的障害のある入所者が大けがをし、職員らが逮捕された事件で、同じ社会福祉法人が運営する別の施設でも今月、入所者の女性が「職員から暴行を受けた」と警察などに話していることがわかりました。施設を運営する法人は「虐待や暴行はない」として、警察や市は詳しい状況を調べています。

ことし4月、宇都宮市の障害者支援施設「ビ・ブライト」で知的障害のある28歳の男性に暴行を加え、全治6か月の大けがをさせたとして、当時、職員として勤務していた松本亜希子容疑者（25）らが傷害の疑いで逮捕されました。

同じ社会福祉法人が運営する栃木市内の障害者支援施設で今月1日、知的障害のある入所者の50代の女性が部屋の窓から外に出て警察に保護されていたことが栃木市などへの取材でわかりました。

女性は胸の痛みを訴えたため、病院で調べたところ、ろっ骨が折れていたほか、腰や背中に複数のあざがあったということです。

施設の窓から外に出た際に骨折した可能性もあるということです。女性は「複数の職員に暴行を受けた」と警察などに話しているということです。

一方、施設を運営する法人は「入所者が逃げ出したことは事実だが、虐待や暴行はない」として、警察や市は詳しい状況を調べています。

また栃木県はこの法人が県内で運営する5つの施設について、近く立ち入り調査を実施し確認することになっています。

宇都宮の施設暴行 女ら「突発的にやった」供述 日本経済新聞 2017年9月14日

宇都宮市の知的障害者支援施設「ビ・ブライト」で入所者の男性が腰の骨を折るなどの重傷を負った事件で、栃木県警に傷害の疑いで逮捕された施設運営法人職員、松本亜希子容疑者（25）＝宇都宮市＝ら2人が「突発的にやった」と供述していることが14日、捜査関係者への取材で分かった。

県警によると、松本容疑者は逮捕当初は容疑を一部否認し、その後「男性を蹴った」と認めた。同じ容疑で逮捕された無職、佐藤大希容疑者（22）＝栃木県那須町＝と合わせ、詳しい動機や経緯を捜査している。

2人は4月15日、共謀して「ビ・ブライト」内で、男性を代わる代わる蹴るなどし、重傷を負わせた疑いが持たれている。〔共同〕

障害者の雇用支援へ優良事業所など表彰



神戸新聞 2017年9月14日
会場では精神科医三好彩さんの講演も行われた＝兵庫県民会館

障害者雇用支援月間（9月）に合わせ、優良事業所などを表彰する「障がい者雇用フェスタひょうご」がこのほど、神戸市中央区下山手通4の県民会館で開かれた。精神科医による就業支援についての講演もあり、約220人が参加した。

兵庫県や県雇用開発協会などの主催。会場では県知事表彰など、三つの賞で12人が賞状を受け取った。

講演では住友精密工業総務人事部の河野正道さんが、聴覚障害者を中心とした同社の採

用実績や従業員の声を紹介。「健常者も障害者も同じように仕事に取り組める環境作りや助け合いの意識が大切」と力を込めた。

精神科医の三好彩さんは「就業支援に必要な精神医学の基礎知識」をテーマに、統合失調症や発達障害の症状、原因などを説明。「どんな症状でも障害者の自立したいという気持ちを大切に、就労支援をしてほしい」と呼び掛けた。(赤松沙和)

優良事業所、優秀勤労者は以下の通り。(敬称略) 【厚生労働大臣表彰】一宮電機(宍粟市)大西一行(クレハ樹脂加工事業所)【県知事表彰】社会福祉法人海光園(神戸市兵庫区)大森成樹(関西学院大学生生活協同組合)▽渡邊絵梨(同)▽中村真澄(同)【高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長努力賞】東レK Pフィルム(加古川市)上田希美(フジッコ)▽宮崎順一(イーグル工業)▽和田浩二(多田スミス)【県雇用開発協会理事長表彰】医療法人社団十善会(神戸市長田区)▽福原精機製作所(同市西区)▽ユニタイト(同)田上ゆきえ(プレテック)▽川崎守美(J R西日本あいウィル)▽藤澤直也(同)▽今北佳子(三菱電機高周波デバイス製作所)▽吉村龍平(稲坂歯車製作所)▽西田幸一(福原精機製作所)

年金598億円支給漏れ 公務員妻ら10万6000人 91年以降、システム不備

東京新聞 2017年9月14日

厚生労働省は十三日、情報システムの不備や事務処理ミスで、一九九一年以降、公務員の妻ら約十万六千人に総額約五百九十八億円の年金の支給漏れがあったと公表した。夫婦の間で年金の上乗せ部分を付け替える「振替加算」という制度で発生。同一の仕組みを巡って起きた年金未払いとしては、過去最大規模という。

対象者の96%は夫婦どちらか一方が、主に公務員が入る共済年金加入のケース。国家公務員と地方公務員が五割弱ずつ、残りが私学共済の加入者。二〇一五年十月に共済年金と会社員向けの厚生年金を一元化したことがきっかけで表面化した。

一人当たりの未払い額は最高で約五百九十万円、平均約五十六万円。対象者に通知を送った上で、十一月十五日に支給する。時効は適用せず、未払い分の全額を支払う。

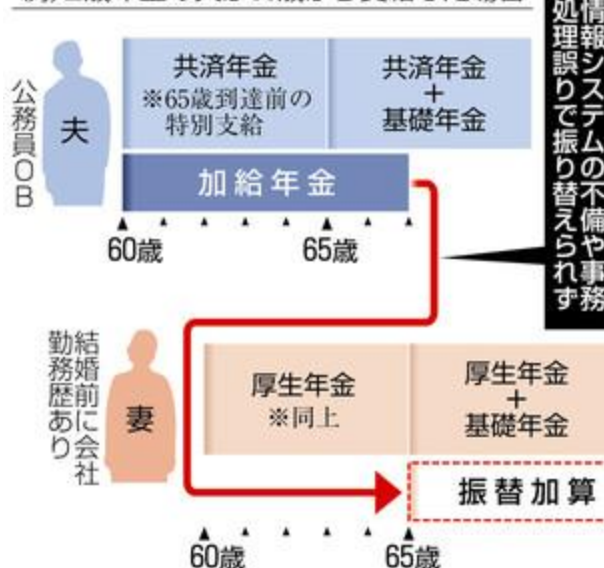
ただ、約四千人は既に亡くなっているため、未支給の年金を受け取る権利のある「生計が一緒だった三親等以内の親族」に知らせる。該当者がいない場合、相続はされず不支給のままとなる。

公的年金では、妻(または夫)が六十五歳未満の場合に、条件を満たせば扶養する夫(または妻)の厚生年金・共済年金に一定額を上乗せする「加給年金」という仕組みがある。妻が六十五歳に達して基礎年金を受け取るようになると、加給年金は妻への「振替加算」に切り替わり、年齢に応じて月約六千〜一万九千円支給されている。

しかし、支給実務を担う日本年金機構と公務員らの共済組合のシステム間で、夫婦の年金記録が情報共有されなかったり、事務処理を誤ったりして、十万五千九百六十三人に計約五百九十八億円の振替加算分が支払われていなかった。未払いは振替加算の仕組みがで

年金の「振替加算」支給漏れのイメージ (支給開始年齢は生年月日によって異なる)

例)2歳年上の夫が60歳から受給した場合



きた九一年から発生していた。

一五年秋の年金一元化を受け年金機構が共済年金の情報システムを直接利用できるようになったため、ミスが相次いでいた振替加算について昨年十二月から総点検を実施して判明した。

◆重く受け止める 官房長官が強調

菅義偉（すがよしひで）官房長官は十三日午後の記者会見で、約五百九十八億円の年金支給漏れがあったと厚生労働省が公表したことに関し「大変な問題だ。支給されていなかった年金を速やかに支払うとともに、再発防止に全力で努める」と述べた。

同時に「日本年金機構が自ら点検して判明し、速やかに対処した」と説明。「ミスが生じないことが最も重要だ。今回の事態を重く受け止め、同機構には適切な事務処理を行うよう対処させたい」と強調した。

日本年金機構は14日から、年金の振替加算支給漏れについて専用ダイヤルを開設し、問い合わせに応じる。年金証書や支給額変更通知書などで自分の基礎年金番号を確認の上、0570(030)261まで。平日午前8時半～午後5時15分まで受け付ける。各地の年金事務所でも問い合わせを受ける。

<振替加算> 厚生年金と共済年金のいずれかに20年以上加入していた受給者に、扶養する65歳未満の配偶者や18歳未満の子ども（障害があれば20歳未満）がいる場合には、「加給年金」として一定額が上乘せ支給される仕組みがある。「老後の扶養家族手当」の位置付けで、配偶者に厚生年金の加入期間が20年以上ある場合は支給されない。配偶者が65歳に達すると加給年金は終了するが、条件を満たせば、配偶者が受給する基礎年金に年齢に応じ月6000～1万9000円程度が「振替加算」として上乘せ支給されている。振替加算の対象は1926年4月2日～66年4月1日生まれの配偶者。

「100円居酒屋」100回超え 国東・朝来地区 過疎地の廃校活用、毎月笑い声【大分県】

西日本新聞 2017年09月14日



記念撮影に納まり、「100回超え」を祝う朝来地区の住民ら101回目の



居酒屋で料理を楽しむ



お年寄り。あちらこちらで近況報告や昔話に花が咲いたずらりと並べられた料理を品定めするお年寄りら
記念イベントで、方言まるだしの講師の話に笑い声を上げる高齢者ら

国東市安岐町朝来（あさく）地区の山里にある廃校に

なった小学校校舎に、毎月第2土曜の夜、お年寄りらが集まってくる。地元住民が育てた野菜で作った料理やお酒…。1品、1杯全て100円。社会福祉法人と地域住民が協力して運営する「100円居酒屋」が8年前のスタートから100回を超えた。関係者は「ここで暮らしたいという人がいる限り続けていきたい」と決意を新たに



する。

国東半島の最高峰・両子山方面に延びる県道沿いにある朝来地区は人口280人、高齢化率は53・2%（8月末）。地区にあった朝来小が2008年に廃校。「学校がなくなると地域が廃れる」と地元住民は有効活用法を模索していた。地区に介護施設をつくる計画があった社会福祉法人「安岐の郷」（同町）に廃校を活用するよう要望。翌09年1月に廃校の校舎内に小規模多機能型居宅介護事業所「朝来サポートセンター」が開設された。

開設にあたり、同法人が地域住民に困り事や新施設への要望などを聞く中で「この1週間誰とも話していない」という声が複数寄せられた。衝撃を受けた高橋とし子理事長（62）は「高齢者や若者、外からの移住者も集まれる場所をつくれなにか」と思案。引退する前の肩書を背負うなどプライドが高く、引きこもりがちになることが多い高齢男性でも、酒があれば足を運んでくれるのではないかと。その答えが「居酒屋」だった。

狙いは的中。廃校の体育館や教室を利用した居酒屋は、オープン当初から100人ほど、多いときには300人以上集まった。しかし、参加者が増えるにつれ、仕事も抱える介護事業所のスタッフだけでは維持が難しくなってきた。スタートから約1年半がたったころ、地元住民に相談すると二つ返事で加勢を了承。今では49人の「応援隊」が料理の盛りつけや会場準備、野菜の調達などを手伝っている。

料理の食材となる野菜は毎回地域の農家がお裾分け。足りない肉や魚などは同法人が購入し、毎回10品以上を作っている。ビール類は購入しているが、地域の酒造会社が毎回日本酒を無償提供している。高齢者らは好きなものを選び、体育館や元教室に並ぶテーブルで約2時間、昔話に花を咲かせている。今では、地区人口の3分の1ほどの人が訪れ、ワイワイ、ガヤガヤ。笑いの絶えない憩いの場となった。

09年5月から100円居酒屋は毎月、休むことなく続き、今年8月に100回目を迎えた。101回目の今月9日、記念式典が廃校の元朝来小体育館であった。高齢者や移住者らは方言による弁論大会で大声で笑い、杵築市のフォークグループのステージでは若い頃を思い出し、手拍子しながら一緒に歌った。その後、お待ちかねの「100円居酒屋」がスタート。約160人が集まった。

「100回は来たよ。死ぬまで来るけの」と95歳の宇佐元文人さんはつえをついて居酒屋の会場へ。80代女性は「おしゃべりが好きで、この日が来るのが待ち遠しい。元気で長生き。子どもには迷惑をかけたくないからね」とにっこり。赤ら顔の面々の話は尽きず、約900食用意した料理もほとんどなくなった。

高橋理事長は「いつもより盛況で、とてもうれしい。今ここに住んでいる人は子どもや孫が都会に行っても、故郷を守ろうと頑張っている人たち。今後もこの人に寄り添っていきたい」と話す。

100円居酒屋は、地域で高齢者を見守る地域包括ケアの先進的な取り組みとして注目され、全国から市町村の視察が相次ぎ、高橋理事長の講演活動も続いている。

高校生の介護技術大会 日高高ペア初の全国へ 近畿2位の同級生がサポート 兵庫



産経新聞 2017年9月14日
賞状を手にする鎌田・中村ペア（左側）、足立・寺谷ペアと高附教諭＝豊岡市日高町

高校生が介護技術を競う全国大会に、豊岡市日高町の県立日高高校福祉科3年の鎌田千尋さん（18）、中村知歩実さん（17）のペアが近畿代表として出場する。同校からは全国初挑戦の快挙だ。惜しくも近畿2位だったペアも同級生で、生徒らは「4人で力をあわせ、上位を目指したい」と意気込んでいる。

2人は7月末に同校であった介護技術コンテストの県大会で優勝。同級生の足立有里さん（17）と寺谷咲良さん（18）ペアも準優勝となり、そろって8月に大阪府内で行わ

れた近畿大会に出場した。場面設定のもと高齢者介護の実技と介護ポイントの発表内容が審査され、7組中、両ペアが県大会と同じく1位の最優秀賞、2位の優秀賞を独占した。

夏休みの間、2組は連日協力しながら練習に励み、「自信はなかった」などと緊張しながら臨んだ近畿大会でも元気な声かけと笑顔、きびきびした動作が高く評価された。

しかし、全国大会に出場できるのは優勝した1組だけ。それだけに鎌田・中村ペアは「ここまで来られたのは4人で頑張ったから。近畿代表として4人の力をあわせて良い結果を残したい」と話せば、足立・寺谷ペアも「上位を狙えるよう、2人をしっかりサポートしたい」と誓った。

全国大会は10月22日に秋田市内で開かれ、9地区12組が挑む。福祉科長の高附永吉教諭(35)は「良きライバルとして切磋琢磨できたのが大きい。初の全国で初の栄冠を目標に磨きをかけたい」と力を込めた。

精神障害労災請求が最多 昨年度、18・6%増の140件 神奈川

産経新聞 2017年9月14日

神奈川労働局は平成28年度の精神障害などに伴う労災補償状況をまとめた。精神障害による請求件数は前年度比18・6%増の140件となり、過去10年間で最多となった。支給決定件数42件のうち、業種別で医療・福祉が14件で最多だった。

精神障害を発症した要因としては、いじめや上司とのトラブルなど「対人関係」が9件で最も多く、続いて、時間外労働など「仕事の量・質」と「事故や災害」が、それぞれ8件だった。

業種別の内訳では医療・福祉に次いで、製造業が6件、卸・小売業が5件と続いた。年齢別では40～49歳が14件、30～39歳が10件、29歳以下が9件だった。職種別では、専門的・技術的職業従事者が17件、事務従事者が8件だった。

神奈川労働局の担当者は「電通社員の過労自殺などを契機に、精神障害に伴う労災の関心が高まり、請求件数も高水準を保っている」と分析している。

社説：人への投資は費用対効果を吟味せよ

日本経済新聞 2017年9月14日

政府は新たな看板政策に掲げた「人づくり革命」を議論する有識者会議を立ち上げた。人生100年時代を見据えて、人生の様々なステージでの教育・人材投資のあり方を検討するという。その趣旨は正しいが、課題は費用対効果を考慮して、有効な政策を打ち出せるかだ。

「人生100年時代構想会議」と銘打った会議には、首相や関係閣僚のほか、人材論の専門家の英ロンドン・ビジネススクールのリンダ・グラットン教授や10代の学生起業家など年齢層も多様な有識者を招いた。

初回会合では、(1)幼児教育の無償化(2)すべての人に開かれた大学教育の機会確保(3)社会人を対象にしたリカレント教育の拡充——などを議題とし、財源も含めて検討することになった。

長寿化社会、第4次産業革命などの構造変化が起きるなかで、成長力強化、生産性向上のためにも教育・人材投資の拡充が必要なのは言うまでもない。問題は限られた財源から、どう優先順位をつけて効率的な投資をするかだ。

大学教育について、安倍晋三首相は、返済不要の給付型奨学金の拡充を検討する考えを示した。経済的理由で大学進学をあきらめる若者への支援は必要だが、どこまで支援するかの線引きが重要だ。広げすぎれば大学無償化に限りなく近づく。大学教育の質の改革もあわせて進めることが不可欠だ。

社会人が産業構造の変化などに対応し新たな能力を取得するリカレント教育への支援も、やり方によっては単なるバラマキ政策になる恐れがある。幼児教育では無償化よりも、喫

緊の課題である待機児童の解消を急ぐべきだ。

人材投資を支援するにあたっては、その成果をきちんと検証し、効率的に進める仕組みをつくるべきだ。

首相は「全世代型社会保障」という看板を掲げたが、そのためには高齢者に偏っている社会保障給付を抑え、次世代や現役世代への教育・人的投資に振り向けるといった予算配分の見直しに切り込むことが重要だ。

現在の給付の見直しをせずに、財源を「教育国債」といった借金だけに頼るならば、負担を、育てるべき将来世代に押しつけることになる。有識者会議が単なる予算要求会議にならないように、世代間の公平な負担についても議論してほしい。

社説：年金の支給漏れ またか、この思いだけだ 中日新聞 2017年9月14日

年金支給のミスが明らかとなった。またか、と痛切にそう思わざるを得ない。さまざまなミスが出るたび、制度や組織を見直してきたはずだが、制度への国民の不安は和らぐどころか増すばかりだ。

ミスは幾たび繰り返されるのか。底の知れない不安が募る。

年金支給を担う日本年金機構（旧社会保険庁）の不祥事は枚挙にいとまがない。

二〇〇七年に五千万件もの年金記録の所有者が不明となった「宙に浮いた年金記録」問題が発覚した。多くの人に本来受け取れる年金の支給ができていなかった。年金記録が適切に管理されていなかったためだ。一〇年に組織を機構に改編し出直しを図ったはずだ。だが、一五年には、機構が不正アクセスを受け約百二十五万件の個人情報などが流出した。

今回判明したミスは一九九一年以降、受け取れる年金が支給されていなかった。例えば、年金を受け取る夫に妻や子があると一定の加算があるが、妻が六十五歳となり自身の年金を受け取り始める時に、夫に代わり妻の年金に加算される制度がある。この加算がされていなかった。

判明した未支給の人は全体で十万人を超える。未支給額は計約六百億円になる。最も未支給額の多い人は約五百九十万円だ。受け取らずに亡くなった人もいる。

なぜ、このような事態が生じたのか。今回、支給漏れのあった人は主に夫が公務員らが加入する共済年金だった妻だ。共済年金の記録を管理する各共済組合と、厚生年金を管理し妻へ加算分を支払う機構との情報共有が不十分だった。厚生労働省は、一五年に厚生年金と共済年金が一元化されたことで、情報共有が進み今回の総点検で分かったと言うが、他に不備はないのか。一元化後も共済組合は機構とは別組織のままだ。今後は組織の統合も検討課題だろう。

厚労省と機構は、機構が直接、共済年金の情報を確認することや、妻の受給要件の確認の徹底を決めた。「ミスは必ず出る」との前提に立つことが不可欠だ。

機構の不祥事の大半は情報管理に関するものだ。適切な管理がなくては、正しい年金支給につながらない。機構は情報管理の在り方の見直しに取り組んでいるが、再考が必要だろう。

厚労省が支給漏れを報告した十三日の審議会で機構は「しっかりと再発防止に努めたい」と述べたが、制度への信頼をどう取り戻すのか、行動で示してほしい。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

